

実務経験のある教員等による授業科目一覧（介護福祉学科）

	授業科目	授業の実施形態	時間数	担当教員	実務経験の有無	実務経験
1	介護の基本Ⅰ	講義	45	高橋弘己	有	介護老人保健施設勤務 17年
2	介護総合演習Ⅰ	講義	30	高橋弘己	有	介護老人保健施設勤務 17年
3	介護総合演習Ⅱ	講義・演習	30	高橋弘己	有	介護老人保健施設勤務 17年
4	介護総合演習Ⅲ	講義	30	高橋弘己	有	介護老人保健施設勤務 17年
5	介護総合演習Ⅳ	講義・演習	30	高橋弘己	有	介護老人保健施設勤務 17年
6	コミュニケーション技術B	講義	15	高橋弘己	有	介護老人保健施設勤務 17年
7	人間関係とコミュニケーション	講義	30	高橋弘己	有	介護老人保健施設勤務 17年
	合計		210			

実務経験のある教員等による授業科目一覧（医療事務学科）

	授業科目	授業の実施形態	時間数	担当教員	実務経験の有無	実務経験
1	医療事務（医科）	講義	120	木立幸子	有	病院勤務 6年
2	医事法規	講義	60	木立幸子	有	病院勤務 6年
	合計		180			

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護の基本 I		授業の種類 講 義	
授業担当者 木佐貫 美香 高橋 弘己		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7 年 介護老人保健施設勤務 17 年	
授業の回数 90	時間数(単位数) 90	配当学年・時期 1年・通年	必修・選択 必 修
<p>【授業の目的・ねらい】 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の視点から捉えるための学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】①あらゆる場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。②介護を必要とする人の潜在的な能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 生活の考え方①(講義、質疑応答) 02 生活の考え方②(講義、質疑応答) 03 生活の考え方③(講義、質疑応答) 04 私たちの生活①(講義、質疑応答) 05 私たちの生活②(講義、質疑応答) 06 私たちの生活③(講義、質疑応答) 07 介護を必要とする人の理解(講義、質疑応答) 08 自然な老いによって介護が必要になった事例①(講義、質疑応答) 09 自然な老いによって介護が必要になった事例②(講義、質疑応答) 10 障害者の事例①(講義、質疑応答) 11 障害者の事例②(講義、質疑応答) 12 障害者の事例③(講義、質疑応答) 13 家族と暮らす高齢者の事例①(講義、質疑応答) 14 家族と暮らす高齢者の事例②(講義、質疑応答) 15 家族と暮らす高齢者の事例③(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-90次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「③介護の基本 I」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 一人で暮らす高齢者の事例①(講義、質疑応答)
17 一人で暮らす高齢者の事例②(講義、質疑応答)
18 一人で暮らす高齢者の事例③(講義、質疑応答)
19 認知機能の障害の事例①(講義、質疑応答)
20 認知機能の障害の事例②(講義、質疑応答)
21 認知機能の障害の事例③(講義、質疑応答)
22 尊厳を支える介護①(講義、質疑応答)

- 23 尊厳を支える介護②(講義、質疑応答)
- 24 尊厳を支える介護③(講義、質疑応答)
- 25 生活環境のとりえ方①(講義、質疑応答)
- 26 生活環境のとりえ方②(講義、質疑応答)
- 27 生活環境のとりえ方③(講義、質疑応答)
- 28 生活障害の理解と生活ニーズ①(講義、質疑応答)
- 29 生活障害の理解と生活ニーズ②(講義、質疑応答)
- 30 生活障害の理解と生活ニーズ③(講義、質疑応答)
- 31 介護の成り立ち①(講義、質疑応答)
- 32 介護の成り立ち②(講義、質疑応答)
- 33 介護の見方・考え方の変化①(講義、質疑応答)
- 34 介護の見方・考え方の変化②(講義、質疑応答)
- 35 利用者に合わせた生活支援①(講義、質疑応答)
- 36 利用者に合わせた生活支援②(講義、質疑応答)
- 37 利用者に合わせた生活支援③(講義、質疑応答)
- 38 自立に向けた介護①(講義、質疑応答)
- 39 自立に向けた介護②(講義、質疑応答)
- 40 自立に向けた介護③(講義、質疑応答)
- 41 介護の専門性①(講義、質疑応答)
- 42 介護の専門性②(講義、質疑応答)
- 43 介護の専門性③(講義、質疑応答)
- 44 身体的援助とその意義①(講義、質疑応答)
- 45 身体的援助とその意義②(講義、質疑応答)
- 46 身体的援助とその意義③(講義、質疑応答)
- 47 家事支援とその意義①(講義、質疑応答)
- 48 家事支援とその意義②(講義、質疑応答)
- 49 家事支援とその意義③(講義、質疑応答)
- 50 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義①(講義、質疑応答)
- 51 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義②(講義、質疑応答)
- 52 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義③(講義、質疑応答)
- 53 利用者・家族に対する精神的支援とその意義①(講義、質疑応答)
- 54 利用者・家族に対する精神的支援とその意義②(講義、質疑応答)
- 55 利用者・家族に対する精神的支援とその意義③(講義、質疑応答)
- 56 社会・文化的な援助とその意義①(講義、質疑応答)
- 57 社会・文化的な援助とその意義②(講義、質疑応答)
- 58 社会・文化的な援助とその意義③(講義、質疑応答)
- 59 尊厳を支えることの意味①(講義、質疑応答)
- 60 尊厳を支えることの意味②(講義、質疑応答)
- 61 尊厳を支えることの意味③(講義、質疑応答)
- 62 尊厳を支えることの意味④(講義、質疑応答)
- 63 QOLの考え方①(講義、質疑応答)
- 64 QOLの考え方②(講義、質疑応答)
- 65 QOLの考え方③(講義、質疑応答)
- 66 QOLの考え方④(講義、質疑応答)
- 67 ノーマライゼーションの実現①(講義、質疑応答)
- 68 ノーマライゼーションの実現②(講義、質疑応答)
- 69 ノーマライゼーションの実現③(講義、質疑応答)
- 70 ノーマライゼーションの実現④(講義、質疑応答)
- 71 介護におけるICFのとりえ方①(講義、質疑応答)
- 72 介護におけるICFのとりえ方②(講義、質疑応答)
- 73 介護におけるICFのとりえ方③(講義、質疑応答)
- 74 介護におけるICFのとりえ方④(講義、質疑応答)
- 75 ICFの視点に基づくアセスメント①(講義、質疑応答)
- 76 ICFの視点に基づくアセスメント②(講義、質疑応答)
- 77 ICFの視点に基づくアセスメント③(講義、質疑応答)
- 78 ICFの視点に基づくアセスメント④(講義、質疑応答)
- 79 介護実践におけるリハビリテーションの考え方①(講義、質疑応答)

- 80 介護実践におけるリハビリテーションの考え方②(講義、質疑応答)
- 81 介護実践におけるリハビリテーションの考え方③(講義、質疑応答)
- 82 介護実践におけるリハビリテーションの考え方④(講義、質疑応答)
- 83 日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援①(講義、質疑応答)
- 84 日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援②(講義、質疑応答)
- 85 日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援③(講義、質疑応答)
- 86 日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援④(講義、質疑応答)
- 87 リハビリテーション専門職との連携①(講義、質疑応答)
- 88 リハビリテーション専門職との連携②(講義、質疑応答)
- 89 リハビリテーション専門職との連携③(講義、質疑応答)
- 90 リハビリテーション専門職との連携④(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 講義	
授業担当者 高橋 弘己		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 17年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実習の意義と目的、実習先の概要、実習Ⅰの展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識・技術を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 介護実習はこんなにおもしろい(講義、質疑応答) 02 なぜ介護実習が必要なのか(演習、質疑応答) 03 介護実習で何を学ぶか(講義、質疑応答) 04 実習Ⅰの目的とおもな実習内容(講義、質疑応答) 05 実習Ⅱの目的とおもな実習内容(講義、質疑応答) 06 実習前に何を学んだか(講義、質疑応答) 07 他科目での学びをどのように活かすか(講義、質疑応答) 08 通所介護①(講義、質疑応答) 09 通所介護②(講義、質疑応答) 10 特別養護老人ホーム(実習Ⅰ)(講義、質疑応答) 11 老人保健施設(実習Ⅱ)(講義、質疑応答) 12 グループホーム①(講義、質疑応答) 13 グループホーム②(講義、質疑応答) 14 小規模多機能①(講義、質疑応答) 15 小規模多機能②(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑩介護総合演習・実習」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 実習を始めるまでの手続き(講義、質疑応答)
- 17 実習生の心得①(講義、質疑応答)
- 18 実習生の心得②(講義、質疑応答)
- 19 実習生の心得③(講義、質疑応答)
- 20 実習生の心得④(講義、質疑応答)
- 21 実習計画と記録(日誌)①(講義、質疑応答)
- 22 実習計画と記録(日誌)②(講義、質疑応答)

- 23 実習計画と記録(日誌)③(講義、質疑応答)
- 24 実習計画と記録(日誌)④(講義、質疑応答)
- 25 コラム(講義、質疑応答)
- 26 実習モデル①(講義、質疑応答)
- 27 実習モデル②(講義、質疑応答)
- 28 実習モデル③(講義、質疑応答)
- 29 実習終了後に行うこと(講義、質疑応答)
- 30 実習の振り返りの重要性(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 高橋 弘己		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 17年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習先の概要、実習Ⅱの展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 実習Ⅱの目的とおもな実習内容①(講義、質疑応答) 02 実習Ⅱの目的とおもな実習内容②(講義、質疑応答) 03 特別養護老人ホーム(実習Ⅱ)①(講義、質疑応答) 04 特別養護老人ホーム(実習Ⅱ)②(講義、質疑応答) 05 特別養護老人ホーム(実習Ⅱ)③(講義、質疑応答) 06 特別養護老人ホーム(実習Ⅱ)④(演習、質疑応答) 07 老人保健施設(実習Ⅱ)①(講義、質疑応答) 08 老人保健施設(実習Ⅱ)②(講義、質疑応答) 09 老人保健施設(実習Ⅱ)③(講義、質疑応答) 10 老人保健施設(実習Ⅱ)④(演習、質疑応答) 11 身体障害者療護施設①(講義、質疑応答) 12 身体障害者療護施設②(講義、質疑応答) 13 身体障害者療護施設③(講義、質疑応答) 14 身体障害者療護施設④(演習、質疑応答) 15 実習前に何を学んだか(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑩介護総合演習・実習」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 他科目での学びをどのように活かすか(講義、質疑応答)
- 17 実習を始めるまでの手続き(講義、質疑応答)
- 18 実習計画と記録(日誌)①(講義、質疑応答)
- 19 実習計画と記録(日誌)②(講義、質疑応答)
- 20 実習計画と記録(日誌)③(演習、質疑応答)
- 21 実習計画と記録(日誌)④(演習、質疑応答)
- 22 コラム(講義、質疑応答)
- 23 実習モデル①—①(演習、質疑応答)

- 24 実習モデル①—②(演習、質疑応答)
- 25 実習モデル②—①(演習、質疑応答)
- 26 実習モデル②—②(演習、質疑応答)
- 27 実習終了後に行うこと①(講義、質疑応答)
- 28 実習終了後に行うこと②(講義、質疑応答)
- 29 実習の振り返りの重要性①(講義、質疑応答)
- 30 実習の振り返りの重要性②(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護総合演習Ⅲ		授業の種類 講義	
授業担当者 高橋 弘己		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 17年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実習と他科目との関連、実習先の概要、実習Ⅱの展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 実習Ⅰの目的とおもな実習内容①(講義、質疑応答) 02 実習Ⅰの目的とおもな実習内容②(講義、質疑応答) 03 実習Ⅱの目的とおもな実習内容①(講義、質疑応答) 04 実習Ⅱの目的とおもな実習内容②(講義、質疑応答) 05 実習前に何を学んだか①(講義、質疑応答) 06 実習前に何を学んだか②(講義、質疑応答) 07 他科目での学びをどのように活かすか①(講義、質疑応答) 08 他科目での学びをどのように活かすか②(講義、質疑応答) 09 訪問介護(実習Ⅰ)①(講義、質疑応答) 10 訪問介護(実習Ⅰ)②(講義、質疑応答) 11 訪問介護(実習Ⅰ)③(講義、質疑応答) 12 訪問介護(実習Ⅰ)④(講義、質疑応答) 13 実習生の心得①(講義、質疑応答) 14 実習生の心得②(講義、質疑応答) 15 実習生の心得③(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑩介護総合演習・実習」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 実習生の心得④(講義、質疑応答)
17 実習を始めるまでの手続き(講義、質疑応答)
18 実習計画と記録①(講義、質疑応答)
19 実習計画と記録②(講義、質疑応答)
20 実習計画と記録③(講義、質疑応答)
21 実習計画と記録④(講義、質疑応答)
22 実習モデル①—①(講義、質疑応答)
23 実習モデル①—②(講義、質疑応答)

- 24 実習モデル②—①(講義、質疑応答)
- 25 実習モデル②—②(講義、質疑応答)
- 26 実習終了後に行うこと①(講義、質疑応答)
- 27 実習終了後に行うこと②(講義、質疑応答)
- 28 実習の振り返りの重要性①(講義、質疑応答)
- 29 実習の振り返りの重要性②(講義、質疑応答)
- 30 実習の振り返りの重要性③(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護総合演習Ⅳ		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 高橋 弘己		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 17年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習先の概要、実習Ⅱの展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 ケアハウス①(講義、質疑応答) 02 ケアハウス②(講義、質疑応答) 03 ケアハウス③(講義、質疑応答) 04 ケアハウス④(演習、質疑応答) 05 重症心身障害児施設①(講義、質疑応答) 06 重症心身障害児施設②(講義、質疑応答) 07 重症心身障害児施設③(講義、質疑応答) 08 重症心身障害児施設④(演習、質疑応答) 09 知的障害者更生施設①(講義、質疑応答) 10 知的障害者更生施設②(講義、質疑応答) 11 知的障害者更生施設③(講義、質疑応答) 12 知的障害者更生施設④(演習、質疑応答) 13 訪問介護(実習Ⅱ)①(講義、質疑応答) 14 訪問介護(実習Ⅱ)②(講義、質疑応答) 15 訪問介護(実習Ⅱ)③(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑩介護総合演習・実習」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 訪問介護(演習、質疑応答)
17 実習終了後に行うこと①(講義、質疑応答)
18 実習終了後に行うこと②(講義、質疑応答)
19 実習終了後に行うこと③(講義、質疑応答)
20 実習終了後に行うこと④(演習、質疑応答)
21 実習終了後に行うこと⑤(演習、質疑応答)
22 実習終了後に行うこと⑥(演習、質疑応答)
23 実習終了後に行うこと⑦(演習、質疑応答)

- 24 実習の振り返りの重要性①(講義、質疑応答)
- 25 実習の振り返りの重要性②(講義、質疑応答)
- 26 実習の振り返りの重要性③(講義、質疑応答)
- 27 実習の振り返りの重要性④(講義、質疑応答)
- 28 実習の振り返りの重要性⑤(講義、質疑応答)
- 29 実習の振り返りの重要性⑥(演習、質疑応答)
- 30 実習の振り返りの重要性⑦(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル コミュニケーション技術 B		授業の種類 講 義	
授業担当者 高橋 弘己		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 17 年	
授業の回数 15	時間数(単位数) 15	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必 修
<p>【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u></p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ①他社に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。②円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 01 介護におけるチームのコミュニケーションとは(講義、質疑応答) 02 介護におけるチームのコミュニケーションの方法(講義、質疑応答) 03 介護における記録の意義と目的(講義、質疑応答) 04 介護における記録の種類(講義、質疑応答) 05 記録の書き方と留意点(講義、質疑応答) 06 記録の活用①(講義、質疑応答) 07 記録の活用②(講義、質疑応答) 08 情報の保護と管理(講義、質疑応答) 09 IT を活用した記録の意義と活用の留意点(講義、質疑応答) 10 報告・連絡・相談の意義と目的(講義、質疑応答) 11 報告・連絡・相談の方法と留意点(講義、質疑応答) 12 会議の意義と目的(講義、質疑応答) 13 会議の種類(講義、質疑応答) 14 会議の方法と留意点(講義、質疑応答) 15 プレゼンテーションの基本(講義、質疑応答)</p>			
【使用テキスト・参考文献】 新・介護福祉士養成講座 「⑤コミュニケーション技術」(中央法規出版)		【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、 期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。	

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

科目名	人間関係とコミュニケーション						
担当教員名	高橋 弘己						
配当学年・学期	2年 前期	時間・単 位数	30	授業区 分	講義	必選の 別	必修
授業の目的	対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。						
授業の目標 (到達目標)	人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。 チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶことができる。						
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座1 「人間の理解」 中央法規						
評価基準・方法	授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験結果を総合的に勘案して行う。						

1. 授業計画と内容

回	テーマ・内容	形式	使用テキスト
1	介護実践におけるチームマネジメントの意義	講義	P178
2	ヒューマンサービスとしての介護サービス①	講義	P179
3	ヒューマンサービスとしての介護サービス②	講義	P179
4	介護現場で求められるチームマネジメント①	講義	P179～182
5	介護現場で求められるチームマネジメント②	講義	P183～187
6	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み①	講義	P188～190
7	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み②	講義	P191～192
8	ケアを展開するためのチームマネジメント	講義	P203
9	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み①	講義	P204
10	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み②	講義	P205
11	チームでケアを展開するためのマネジメント①	講義	P206～P208
12	チームでケアを展開するためのマネジメント②	講義	P209～211
13	チームの力を最大化するためのマネジメント①	講義	P212～215
14	チームの力を最大化するためのマネジメント②	講義	P216～218
15	情報共有の場について考える	講義	P219
16	リーダーシップ・フォロワーシップについて考える	講義	P219
17	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	講義	P220
18	介護福祉職のキャリアと求められる実践力①	講義	P220
19	介護福祉職のキャリアと求められる実践力②	講義	P220
20	介護福祉職としてのキャリアデザイン①	講義	P221～223
21	介護福祉職としてのキャリアデザイン②	講義	P224～227
22	介護福祉職のキャリア支援・開発①	講義	P228～230
23	介護福祉職のキャリア支援・開発②	講義	P231～232
24	自己研鑽に必要な支援	講義	P233～242
25	介護福祉士としてのキャリアをイメージする	講義	P250

26	スーパービジョンの機能について理解する	講義	P250
27	組織の目標達成のためのチームマネジメント	講義	P251
28	介護サービスを支える組織の構造	講義	P251
29	介護サービスを支える組織の機能と役割	講義	P252～259
30	介護サービスを支える組織の管理	講義	P260～265

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 医療事務(医科)		授業の種類 講 義	
授業担当者 木立 幸子		具体的な実務経験の内容 病院勤務 6 年	
授業の回数 120	時間数(単位数) 120	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必 修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>診療報酬請求に関する知識を学び、病院勤務に必要な知識及び技術を身につける。 医療事務技能審査試験・メディカルクラーク(医科)資格取得の為の知識の取得。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>患者接遇、医療保険制度、医療関連法規、レセプトの理解</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>医療事務技能審査試験・メディカルクラーク(医科)資格取得に足る知識の習得。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 医療保険制度の基礎知識・点数表の読み方(講義、質疑応答)</p> <p>02 初診料と再診料①(講義、質疑応答)</p> <p>03 初診料と再診料②(講義、質疑応答)</p> <p>04 初診料と再診料③(講義、質疑応答)</p> <p>05 初診料と再診料④(問題演習、質疑応答)</p> <p>06 初診料と再診料⑤(問題演習、質疑応答)</p> <p>07 医学管理等①(講義、質疑応答)</p> <p>08 医学管理等②(講義、質疑応答)</p> <p>09 医学管理等③(講義、質疑応答)</p> <p>10 医学管理等④(問題演習、質疑応答)</p> <p>11 医学管理等⑤(問題演習、質疑応答)</p> <p>12 在宅医療①(講義、質疑応答)</p> <p>13 在宅医療②(講義、質疑応答)</p> <p>14 在宅医療③(問題演習、質疑応答)</p> <p>15 在宅医療④(問題演習、質疑応答)</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>医療事務 テキスト1 (医科・歯科共通)</p> <p>テキスト2 (医科・歯科・クリニック共通)</p> <p>医科テキスト3・4 医科スタディブック</p> <p>ハンドブック(医科) (東京丸の内出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、 期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 処置①(講義、質疑応答)
- 17 処置②(講義、質疑応答)
- 18 処置③(講義、質疑応答)
- 19 処置④(問題演習、質疑応答)
- 20 処置⑤(問題演習、質疑応答)
- 21 手術・輸血・麻酔①(講義、質疑応答)

- 22 手術・輸血・麻酔②(講義、質疑応答)
- 23 手術・輸血・麻酔③(講義、質疑応答)
- 24 手術・輸血・麻酔④(問題演習、質疑応答)
- 25 手術・輸血・麻酔⑤(問題演習、質疑応答)
- 26 検査①(講義、質疑応答)
- 27 検査②(講義、質疑応答)
- 28 検査③(講義、質疑応答)
- 29 検査④(講義、質疑応答)
- 30 検査⑤(講義、質疑応答)
- 31 検査⑥(講義、質疑応答)
- 32 病理診断①(講義、質疑応答)
- 33 病理診断②(講義、質疑応答)
- 34 病理診断③(問題演習、質疑応答)
- 35 リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療①(講義、質疑応答)
- 36 リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療②(講義、質疑応答)
- 37 リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療③(問題演習、質疑応答)
- 38 入院料等①(講義、質疑応答)
- 39 入院料等②(講義、質疑応答)
- 40 入院料等③(講義、質疑応答)
- 41 入院料等④(問題演習、質疑応答)
- 42 入院料等⑤(問題演習、質疑応答)
- 43 投薬(処方箋)①(講義、質疑応答)
- 44 投薬(処方箋)②(講義、質疑応答)
- 45 投薬(処方箋)③(講義、質疑応答)
- 46 投薬(処方箋)④(問題演習、質疑応答)
- 47 投薬(処方箋)⑤(問題演習、質疑応答)
- 48 投薬(処方箋)⑥(問題演習、質疑応答)
- 49 注射①(講義、質疑応答)
- 50 注射②(講義、質疑応答)
- 51 注射③(講義、質疑応答)
- 52 注射④(問題演習、質疑応答)
- 53 注射⑤(問題演習、質疑応答)
- 54 注射⑥(問題演習、質疑応答)
- 55 画像診断①(講義、質疑応答)
- 56 画像診断②(講義、質疑応答)
- 57 画像診断③(講義、質疑応答)
- 58 画像診断④(問題演習、質疑応答)
- 59 画像診断⑤(問題演習、質疑応答)
- 60 画像診断⑥(問題演習、質疑応答)
- 61 カルテとレセプトの見方(講義、質疑応答)
- 62 レセプト点検①(講義、質疑応答)
- 63 レセプト点検②(講義、質疑応答)
- 64 レセプト点検③(講義、質疑応答)
- 65 レセプト点検④(講義、質疑応答)
- 66 医療機関の分類と保険医療機関
- 67 外来業務と入院業務(講義、質疑応答)
- 68 医療保険制度①(講義、質疑応答)
- 69 医療保険制度②(講義、質疑応答)
- 70 医療保険制度③(講義、質疑応答)
- 71 医療保険制度④(講義、質疑応答)
- 72 医療保険制度⑤(講義、質疑応答)
- 73 後期高齢者医療制度①(講義、質疑応答)
- 74 後期高齢者医療制度②(講義、質疑応答)
- 75 窓口徴収(講義、質疑応答)
- 76 公費負担医療制度①(講義、質疑応答)
- 77 公費負担医療制度②(講義、質疑応答)
- 78 公費負担医療制度③(講義、質疑応答)

- 79 公費負担医療制度④(講義、質疑応答)
- 80 公費負担医療制度⑤(講義、質疑応答)
- 81 介護保険制度①(講義、質疑応答)
- 82 介護保険制度②(講義、質疑応答)
- 83 健康保険法①(講義、質疑応答)
- 84 健康保険法②(講義、質疑応答)
- 85 保険医療機関及び保険医療養担当規則①(講義、質疑応答)
- 86 保険医療機関及び保険医療養担当規則②(講義、質疑応答)
- 87 保険医療機関及び保険医療養担当規則③(講義、質疑応答)
- 88 電子カルテシステム・保険外併用療養費・DPC 制度(講義、質疑応答)
- 89 その他の公費負担医療制度・医療費助成制度、労災と自賠責①(講義、質疑応答)
- 90 その他の公費負担医療制度・医療費助成制度、労災と自賠責②(講義、質疑応答)
- 91 患者接遇の基本①(講義、質疑応答)
- 92 患者接遇の基本②(講義、質疑応答)
- 93 患者受付の対応①(講義、質疑応答)
- 94 患者受付の対応②(講義、質疑応答)
- 95 患者受付の対応③(講義、質疑応答)
- 96 個人情報保護の取り扱い①(講義、質疑応答)
- 97 個人情報保護の取り扱い②(講義、質疑応答)
- 98 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇①(問題演習、質疑応答)
- 99 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇②(問題演習、質疑応答)
- 100 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇③(問題演習、質疑応答)
- 101 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇④(問題演習、質疑応答)
- 102 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇⑤(問題演習、質疑応答)
- 103 検定試験対策・学科 医療事務知識①(問題演習、質疑応答)
- 104 検定試験対策・学科 医療事務知識②(問題演習、質疑応答)
- 105 検定試験対策・学科 医療事務知識③(問題演習、質疑応答)
- 106 検定試験対策・学科 医療事務知識④(問題演習、質疑応答)
- 107 検定試験対策・学科 医療事務知識⑤(問題演習、質疑応答)
- 108 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検①(問題演習、質疑応答)
- 109 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検②(問題演習、質疑応答)
- 110 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検③(問題演習、質疑応答)
- 111 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検④(問題演習、質疑応答)
- 112 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑤(問題演習、質疑応答)
- 113 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑥(問題演習、質疑応答)
- 114 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑦(問題演習、質疑応答)
- 115 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑧(問題演習、質疑応答)
- 116 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑨(問題演習、質疑応答)
- 117 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑩(問題演習、質疑応答)
- 118 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑪(問題演習、質疑応答)
- 119 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑫(問題演習、質疑応答)
- 120 総復習(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 医事法規		授業の種類 講義	
授業担当者 木立 幸子 三神 修		具体的な実務経験の内容 病院勤務 6年	
授業の回数 60	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 1年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 社会保障制度及び医療関連法規の概要を理解し、知識の定着を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 医療施設に関する法規、医療従事者に関する法規、薬事に関する法規、保険診療に関する法規 労働に関する法規、社会福祉に関する法規、公費負担に関する法規、その他の関連法規 保険医療機関及び保険医療養担当規則</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 医療関連法規を理解し、診療報酬請求事務能力認定試験の資格取得に足る知識の習得。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 01 社会保障制度及び医療保障制度の概説(講義、質疑応答) 02 医療法①(講義、質疑応答) 03 医療法②(講義、質疑応答) 04 医療法③(講義、質疑応答) 05 医療法④(講義、質疑応答) 06 医療法⑤(講義、質疑応答) 07 医療法⑥(講義、質疑応答) 08 医療従事者に関する法規(講義、質疑応答) 09 医師法(講義、質疑応答) 10 薬剤師法(講義、質疑応答) 11 保健師助産師看護師法(講義、質疑応答) 12 診療放射線技師法(講義、質疑応答) 13 臨床工学技士法(講義、質疑応答) 14 救急救命士法(講義、質疑応答) 15 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律①(講義、質疑応答)</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 医事関連法の完全知識 (医学通信社) 新 医療秘書実務シリーズ4 改訂 医療関連法規 (建帛社)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律②(講義、質疑応答)
17 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律③(講義、質疑応答)

- 18 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律①(講義、質疑応答)
- 19 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律②(講義、質疑応答)
- 20 医薬品・医療機器に関する法律①(講義、質疑応答)
- 21 医薬品・医療機器に関する法律②(講義、質疑応答)
- 22 医療保険制度①(講義、質疑応答)
- 23 医療保険制度②(講義、質疑応答)
- 24 医療保険の種類①(講義、質疑応答)
- 25 医療保険の種類②(講義、質疑応答)
- 26 健康保険法①(講義、質疑応答)
- 27 健康保険法②(講義、質疑応答)
- 28 健康保険法③(講義、質疑応答)
- 29 健康保険法④(講義、質疑応答)
- 30 健康保険法⑤(講義、質疑応答)
- 31 健康保険法⑥(講義、質疑応答)
- 32 健康保険法⑦(講義、質疑応答)
- 33 健康保険法⑧(講義、質疑応答)
- 34 国民健康保険法①(講義、質疑応答)
- 35 国民健康保険法②(講義、質疑応答)
- 36 高齢者の医療の確保に関する法律①(講義、質疑応答)
- 37 高齢者の医療の確保に関する法律②(講義、質疑応答)
- 38 高齢者の医療の確保に関する法律③(講義、質疑応答)
- 39 診療報酬に関する法規(講義、質疑応答)
- 40 社会保険診療報酬支払基金法(講義、質疑応答)
- 41 保険医療機関及び保険医療養担当規則①(講義、質疑応答)
- 42 保険医療機関及び保険医療養担当規則②(講義、質疑応答)
- 43 保険医療機関及び保険医療養担当規則③(講義、質疑応答)
- 44 保険医療機関及び保険医療養担当規則④(講義、質疑応答)
- 45 保険医療機関及び保険医療養担当規則⑤(講義、質疑応答)
- 46 生活保護法(講義、質疑応答)
- 47 介護保険法①(講義、質疑応答)
- 48 介護保険法②(講義、質疑応答)
- 49 介護保険法③(講義、質疑応答)
- 50 介護保険法④(講義、質疑応答)
- 51 介護保険法⑤(講義、質疑応答)
- 52 難病の患者に対する医療等に関する法律(講義、質疑応答)
- 53 労働者災害補償保険法①(講義、質疑応答)
- 54 労働者災害補償保険法②(講義、質疑応答)
- 55 労働者災害補償保険法③(講義、質疑応答)
- 56 労働者災害補償保険法④(講義、質疑応答)
- 57 労働者災害補償保険法⑤(講義、質疑応答)
- 58 自動車損害賠償保障法(講義、質疑応答)
- 59 個人情報保護に関する法律(講義、質疑応答)
- 60 総復習(講義、質疑応答)